

クスノキの下で

135 武蔵高等学校中学校

ある日、僕は3限目の授業をサボった。この学校は緑が豊かで、イチョウやスダジイなどが植えてあるが、中でも敷地の中央にそびえ立つ大欅は樹齢200年を超えていて、歴史のある学校の中でも一段と厳かである。その木の下で、僕はきもちよく昼寝をしていた。

チャイムの音が聞こえて目を覚ますと、そこはいつもの風景かに思えた。流石に2時間も続けてサボるのは気が引けたので、教室に戻ろうと起き上がる。その時、背後から横に見慣れない緑色の電車がやってきた。ここは学校だ、そんなことはありえない。寝ぼけているのか、それとも、ここは夢の中なのか。寝起きの頭では、なんなのかわからない。

空を見上げると、そこに立つ木は毎日見ている木と違って見えた。クスノキの独特の香りが漂ってきて、自然と心地よい。この学校にクスノキはない。ここは一体どこなのだろうか。

再びチャイムの音で起きると、そこはいつもの学校、大欅の下だった。



旅する人
江戸川乱歩賞
2026 出展作品